

科目名称 (Course Title)				担当教員 (Instructor)	
外国文化論				渋谷節子/大谷 杏	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要 (Course Description)					
<p>本授業は、パートⅠとパートⅡから構成され、パートⅠではアジアの文化や社会について学び、パートⅡでは、フィンランドとアメリカの教育と社会について学修する。</p> <p>パートⅠ：アジアは広大な地域であり、多様かつ複雑な歴史、文化、社会によって特徴づけられる。アジアの地域の人々が20世紀以降に経験してきた歴史的出来事、社会変化と文化変容について具体的な民族誌（エスノグラフィ）を通して学び、これらの歴史的な出来事がいかに人々の社会生活や文化と影響し合ってきたのかを考える。（担当教員：渋谷節子）</p> <p>パートⅡ：フィンランドは日本と同時期に外国人住民が急増した国であり、アメリカは多民族国家として知られている。両国の多文化への対応から、日本に生かせることは何かを検討する。（担当教員：大谷杏）</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 東アジア・東南アジアの社会や文化の多様性を理解する。 (2) 植民地時代以降に東アジア・東南アジアの人々が経験した文化変容について考察できる。 (3) フィンランドとアメリカ合衆国の国内の多文化への対応について把握する。 (4) 多文化社会としてのアジアやヨーロッパの将来について、自ら考える。 					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	パートⅠ イントロダクション：東アジア・東南アジアの人々の生活				
第 2 回	東南アジアの農村社会と家族				
第 3 回	植民地主義によるアジアの社会変化とポスト植民地主義				
第 4 回	東南アジアにおける国民国家の成立				
第 5 回	東アジア・東南アジアの近代産業化とジェンダー				
第 6 回	東南アジアで進む経済開発				
第 7 回	東アジア・東南アジアの都市化と格差				
第 8 回	東アジアにおける社会主義と後期社会主義				
第 9 回	東南アジアの戦争と現在				
第 10 回	パートⅡ イントロダクション1：フィンランドの地理と社会				
第 11 回	フィンランドの公共図書館				
第 12 回	フィンランドの移民と言語学習				
第 13 回	イントロダクション2：アメリカ合衆国の地理と社会				
第 14 回	アメリカ合衆国の文化的多様性				
第 15 回	アメリカ合衆国の移民社会の暮らし				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<ul style="list-style-type: none"> ・パートⅠでは、毎週、翌週の授業までに読むように指定されたテキストを読んでおくこと。 ・パートⅡでは、自らフィンランドやアメリカに関する情報を収集し、関心を高めておくこと。 					

評価方法 (割合)	評価基準
授業中のディスカッションへの参加 (25%) 毎授業のワークシートの提出 (25%) 最終レポート (50%)	秀：外国文化の理解について基本的な枠組みを習得し、適切な事例を用いて外国文化理解について自らの考察をし、具体的な実践方法を考えることができる。 優：外国文化の理解について基本的な枠組みを習得し、適切な事例を用いて外国文化理解について自らの考察をすることができる。 良：外国文化の理解について基本的な枠組みを習得し、自らの考察をすることができる。 可：外国文化の理解について基本的な枠組みを習得している。
テキスト (Textbook)	【書名】 入門東南アジア近現代史 【著者】 岩崎育夫 【出版社】 講談社現代新書 【出版年】 2017年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	青木保著『異文化理解』岩波書店 (2015年) 岩崎正吾編著『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社 (2018年)
備考 (Other Information)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	初回の授業で連絡する。